

●テーマ別シンポジウム企画案：「スポーツ文化」研究部会

(A)9/7午後、(B)9/8午前、(C) 9/8午後

	解決すべき上位の課題	シンポジウムのテーマ	シンポジウムの趣旨	シンポジスト・発表テーマ(仮)	コーディネーター
(A) 2h	グローバル課題の解決に向けて スポーツから何が提案できるか	SDGsとスポーツとの接点を探る	SDGsの理念やスポーツの可能性と課題を理解し、スポーツがSDGsに何をもたらし、SDGsがスポーツに何をもたらすのかについて議論を重ねながら、両者の接点を探る。	①澤田 陽樹（グリーンスポーツアライアンス） #SDGsの理念や背景 ②石坂 友司（奈良女子大学） #スポーツの現状と課題 ③澤江 幸則（筑波大学） #SDGsとスポーツをいかにつなぐか	近藤 智靖（日本体育大学） 山崎 史恵（新潟医療福祉大学）
(B) 2h	人々の生活に根ざした多様なスポーツ文化をいかに醸成していくか	スポーツの理想とその暴力性： 多様なスポーツ文化の醸成へ向けたスポーツ研究の自己反省	本シンポジウムは、体育学そのものに潜む暴力性（＝多様性を排除する力）を学問論的に省察したうえで、体育学が多様なスポーツ文化の醸成に寄与するための方向性を専門領域の垣根を超えた対話から生成しようとするものである。	①樋口 聰（広島大学） #スポーツ文化論の展開と学問論 ②清水 諭（筑波大学） #スポーツ社会学の実践例 ③森丘 保典（日本大学） #スポーツ科学とスポーツ現場の関係性に関する省察	高尾 尚平（日本体育大学） 山口 理恵子（城西大学）
(C) 2h	多様なスポーツ文化の保存・流通・促進をいかに刷新していくか	スポーツ文化の浸透戦略(1)： 文化の保存・流通の批判的検討から	スポーツという文化に対する理解や捉え方、イメージ形成を担うスポーツ文化の保存や流通をどのように考えていったらよいかを議論するために、多様な角度から批判的に検討し、今後の議論を掘り下げていく上での課題や論点を浮かび上がらせることを試みる。	①鈴木 明哲（東京学芸大学） #スポーツ文化を捉える眼や見方の批判的検討 ②瀬戸 邦弘（鳥取大学） #スポーツ文化の保存の批判的検討 ③滝口 隆司（毎日新聞社） #スポーツ文化に関する報道・メディアの批判的検討	深澤 浩洋（筑波大学） 指定討論者：來田 享子（中京大学）

●テーマ別シンポジウム企画案：「学校保健体育」研究部会

(A)9/7午後、(B)9/8午前、(C) 9/8午後

	解決すべき上位の課題	シンポジウムのテーマ	シンポジウムの趣旨	シンポジスト・発表テーマ(仮)	コーディネーター
(A) 2h	大学体育の授業をいかに良質なものにするか	大学体育の社会的使命とその実現可能性を考える：歴史的変遷からみる大学体育の現在地	大学における教養教育としての体育の必要性について、その制度や実践によって積み重ねられてきた知を歴史的変遷から読み直し、現代社会に求められる大学体育のあり方について探究する。	①木内 敦詞（筑波大学） #大学体育授業の制度や仕組みの変遷 ②金谷 麻理子（筑波大学） #大学体育授業の実践内容及び大学体育の教員養成の変遷 ③高村 秀史（日本福祉大学） #大学体育授業の運営及びそれを通じた教員の組織作りの変遷	高橋 浩二（長崎大学） 木村 華織（東海学園大学）
(B) 2h	保健体育授業をいかに良質なものにするか	より良質な保健体育授業の具体像を考える：コロナ禍の保健体育から、あらためてその意義と価値を整理する	コロナ禍の現状を踏まえて、あらためて子どもと運動・スポーツ、健康等の関係について考察し、子ども達にとってのこれからの中の体育・保健体育の意義と価値を整理するとともに、そのことを通じて、今後のより良質な体育・保健体育実践の方向性や実践を考える契機とする。	①関 伸夫（スポーツ庁政策課教科調査官） #体育・保健体育行政施策について ②永末 大輔（千葉大学付属小学校） #体育科教育実践について ③丸山 洋生（愛知県立瀬戸高等学校） #保健科教育実践について ④鈴木 敏成（東京都立七生特別支援学校） #特別支援教育実践について	高橋 和子（静岡産業大学） 細越 淳二（国士館大学）
(C) 2h	体育・スポーツ健康科学は学校保健体育の進展にいかに貢献できるか	科学的エビデンスからみた保健体育のカリキュラムと学習指導 学習指導要領の内容と保健体育授業の実状との乖離	昭和世代から比べると子供たちの体力レベルは低水準であり、さらに体力の二極化が鮮明になり運動が苦手な子供が増加しているにも関わらず、学習指導要領の目指す動きや内容は、実情に合っていないこともあり、学校現場での子供の現状と指導要領の目指す姿を整理し、そのギャップに対応する今後の方針を他分野の専門的見解も交えながら論究する。	①白旗 和也（日本体育大学） #学習指導要領作成及び実施上の成果と課題 ②佐藤 善人（東京学芸大学） #学校現場における教師と子どもの乖離 ③木島 章文（山梨大学） #体育心理学の視野で捉えた基礎的運動能力の構造と保健体育	末永 祐介（東京女子体育大学） 柏木 悠（専修大学）

●テーマ別シンポジウム企画案：「競技スポーツ」研究部会

(A)9/7午後、(B)9/8午前、(C) 9/8午後

	解決すべき上位の課題	シンポジウムのテーマ	シンポジウムの趣旨	シンポジスト・発表テーマ(仮)	コーディネーター
(A) 2h	トップアスリート養成をいかに効果的に行うか	トップアスリート養成の拠点としての大学の意義と問題点	トップアスリート養成の拠点としての大学の意義と問題点について、4つの視点（①体育・スポーツ系大学、②一般大学、③女子学生、④UNIVAS）から議論する。	①山田 永子（筑波大学） #体育・スポーツ系大学の視点から ②田原 陽介（青山学院大学） #一般大学の視点から ③川本 竜史（大東文化大学） #女子学生のトップアスリート養成の視点から ④谷釜 尋徳（東洋大学） #UNIVASの視点から	荒井 弘和（法政大学） 須甲 理生（日本女子体育大学）
(B) 2h	競技スポーツにおけるコーチ養成をいかに効果的に行うか	パラ競技スポーツにおけるコーチ養成の現状と今後の方向性	本シンポジウムではパラ競技スポーツのコーチ養成の現状と今後について、指導論、パスウェイ、養成システムの3つの観点から議論する。	①金子 元彦（東洋大学） #日本におけるパラスポーツ指導者養成システムの現状と課題 ②伊藤 雅充（日本体育大学） #世界のパラスポーツ指導における指導論の特徴 ③中澤 吉裕（日本車いすテニス協会） #車いすテニス指導者のパスウェイ	広瀬 統一（早稲田大学） 内田 若希（九州大学）
(C) 2h	ハイパフォーマンススポーツ（トップレベルの競技スポーツ）におけるトレーニングをいかに効果的に行うか	ハイパフォーマンススポーツ（トップレベルの競技スポーツ）におけるフィジカルトレーニングの新たな潮流	常に進化を遂げているハイパフォーマンススポーツ（トップレベルの競技スポーツ）におけるフィジカルトレーニングについて、4つの側面（レジスタンストレーニング、持久性トレーニング、科学サポート、身体負荷モニタリング）からの最新エビデンスやトレーニング方法など、そのトレンドに迫る。	①越田 専太郎（了徳寺大学） #レジスタンストレーニング研究における近年の潮流 ②田畠 泉（立命館大学） #rink side から生まれたタバタトレーニング ③山下 大地（国立スポーツ科学センター） #トレーニングを個別化するためのアセスメント ④小山 孟志（東海大学） #ハイパフォーマンスアスリートの身体負荷モニタリング	熊野 陽人（関西福祉大学） 吉岡 伸輔（東京大学）

●テーマ別シンポジウム企画案：「生涯スポーツ」研究部会

(A)9/7午後、(B)9/8午前、(C) 9/8午後

	解決すべき上位の課題	シンポジウムのテーマ	シンポジウムの趣旨	シンポジスト・発表テーマ(仮)	コーディネーター
(A) 2h	共生社会の実現に向けた生涯スポーツ政策と協働システムをいかに構築するか	共生社会と生涯スポーツは共存できるのか： スポーツのパラダイムチェンジが共存への鍵	「共生社会」の捉え方が漠然としている中で、生涯スポーツにおける共生社会の必要性を多角的に検討するために、本年度は、共生社会と生涯スポーツの共存について、「共存できるのか」という根本的な観点から、生涯スポーツが共生社会に果たす役割、ならびに生涯スポーツが社会に向け果たす役割を確認する。	①菊 幸一（筑波大学） #身体と共生社会、スポーツのパラダイムチェンジ ②大浜 三平（NPO法人スマイルクラブ） #総合型地域スポーツクラブと共生社会 ③藤後 悅子（東京未来大学） #地域スポーツ、共生社会と親	内田 匡輔（東海大学）
(B) 2h	スポーツの産業化は生涯スポーツ・人・地域社会といかに関連するか	Well-Beingの実現にむけて： 生涯スポーツのこれからと社会・産業、そして人	「Well-Being」という鍵概念を整理しつつ、その実現に関わる施策関連スポーツ組織およびスポーツ産業の現状と課題を検討し、体育・スポーツ・健康科学の役割を確認する。	①渡邊 淳司（NTTコミュニケーション科学基礎研究所） #Well-Being研究の概念と展望：「社会」との接点と関係を基軸としつつ ②高橋 義雄（筑波大学） #スポーツ産業界よりWell-Beingにむけて： 利潤の追求と社会への責任、そして幸福 ③重松 良祐（三重大学） #健康・科学・産業：産・学が生みだす健康の諸相とWell-Being	松尾 哲矢（立教大学） 林 洋輔（大阪教育大学） 指定討論者：関根 正美（日本体育大学）
(C) 2h	人生100年時代に向けていかに人々のスポーツ権を保障するか	国民の運動・スポーツ参加の現状および問題点： 国民のスポーツ権を保障するための施策立案に向けて	様々な世代や対象者の運動・スポーツ参加の状況を共有し、施策や環境上の問題点、求められる施策などについて議論することで、今後の有効な政策立案への提言を目指す。	①澤田 亨（早稲田大学） #中高年の世代の運動・スポーツ参加の現状について ②宮本 幸子（笹川スポーツ財団） #若年世代の運動・スポーツ参加の現状について ③小笠原悦子（順天堂大学） #女性の運動・スポーツ参加の現状について	中野 貴博（名古屋学院大学）

●テーマ別シンポジウム企画案：「健康福祉」研究部会

(A)9/7午後、(B)9/8午前、(C) 9/8午後

	解決すべき上位の課題	シンポジウムのテーマ	シンポジウムの趣旨	シンポジスト・発表テーマ(仮)	コーディネーター
(A) 2h	健康増進につながる体力・運動の在り方をいかに考えるか	ライフスタイルに応じた健康増進・体力向上の捉え方：「女」を生きることと健康・スポーツ	女性におけるスポーツ参加・健康づくりに関する現状や課題、将来の展望について、社会科学・スポーツ医学・アスリート・指導者等、様々な観点から議論を深めていく。	①工藤 保子（大東文化大学） #社会科学の立場から ②能瀬 さやか（東京大学医学部附属病院） #自然科学／スポーツ医学の立場から ③山口 香（筑波大学） #アスリート／指導者の立場から	高尾 将幸（東海大学） 木塚 朝博（筑波大学）
(B) 1h40min	認知機能の維持・改善に運動・スポーツはいかに貢献するか	認知機能改善のための身体活動の在り方	慢性的運動が認知機能改善に及ぼす効果について、異なる分野のアプローチを総合的に理解することで、認知機能改善のための身体活動の在り方、ひいては体育・スポーツ研究の在り方を議論する。	①兵頭 和樹（明治安田厚生事業団体力医学研究所） #高齢者の認知機能維持・向上に資する運動の役割 ②森 司朗（鹿屋体育大学） #運動と認知：子どもの運動発達の立場から ③水上 勝義（筑波大学） #認知症専門医の立場から体育分野に期待すること	樋口 貴広（東京都立大学） 根本 みゆき（筑波大学）
(C) 2h	運動不足（不活動）に伴う心身機能の低下をいかに予防するか	テレワーク時代における心身の健康の保持増進の工夫と提言（新しい生活様式と健康の保持・増進）	新しい生活様式での健康保持・増進について、現状・課題等を登壇者に紹介して頂き、集積が必要だと思われるエビデンス・実践事例等について議論し、研究・実践活動の指針を示したい。	①岡 浩一朗（早稲田大学） #COVID-19のパンデミックがもたらした就労者のライフスタイルの変容と健康への影響 ②岩井 智子（日本フィットネス協会） #With/Afterコロナ下のフィットネス産業界の動向とビジョン ③塩田琴美（慶應義塾大） #「新生活様式における障害者スポーツの実践例」 ④大槻 毅（流通経済大学） #クラウド型教育支援サービスによる緊急事態宣言下での健康教育	岩井 浩一（茨城県立医療大学） 沢井 史穂（日本女子体育大学）